

いただきます



全国にその名が喧伝された安芸門徒、江戸時代末期に広島藩が編纂した『芸藩通史』（1825年）には、私たちの先祖の様子が記録されています。

封内（領地内）、親鸞宗に係わるもの多し。その深く信ずる者は、家に神棚を置かず、病んで祈祷せず、毎年祖師の忌、十一月廿二日より廿八日（新暦1月10日～16日）まで素食（お精進）し、漁猟をせず。〔括弧内は筆者注〕

俗信迷信に惑わされず、親鸞聖人のご命日にはお精進をし、殺生をつつしで暮らしているとあります。

昔から広島では「おたんや（親鸞聖人のご命日には「煮込め（広島の郷土料理）」を食べ、お精進で過ごしてきました。



今度のおたんや（1月16日）は、煮込めでござよう！

このほか、広島大学の有元正雄さん（『真宗の宗教社会史』）によると、安芸門徒は「間引き」をしなかったそうです。

もったいない



# 安芸門徒



ごちそうさま

食糧事情が悪くても私たちの先祖は頑張りました。で、食べるために出稼ぎに、「津山（岡山県）稼ぎ」に行きました。ハワイやブラジルなどに移民が多いのもそのせいということです。

以前ご法事である男性が、「私が今あるのは亡くなった母がどうしても生んで育てると頑張ってくれたおかげなんです」と涙ながらに話して下さったのを思い出します。

また殖産のため藩が養蚕を奨励しましたが、私たちの先祖はそれを拒否したということです。生系をとるためには繭をお湯につけて蚕を殺さねばならないので「かわいそうだから」というのが理由とのこと。

仏法が深くしみこんだ私たちの先祖の生き方、心の深さを誇りに思うことです。

今年のご講師伊藤先生によると、福島原発事故以来、殺処分された牛は、1500～1600頭にのぼるのだそうです。日本ペンクラブで同席した中村敦夫さん（俳優・作家）は、「人間のエゴで他の生命が脅かされている、これからは『生命の民主主義』を広めてゆかねばならない、本願寺さんがそれをやってください」とおっしゃったということです。

人間も他の生命も大切にしようとしてきた安芸門徒、これからが問われている気がします。

ありがとう・ごめんなさい

合 掌

〔食後のことば〕

尊いおめぐみをおいしくいただき、  
 ますますご恩報謝につとめます。  
 おかげで、ごちそうさまでした。

〔食前のことば〕

多くのいのちと、みなさまのおかげにより、  
 このごちそうをめぐまれました。  
 深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。

※食中毒防止のため、早めにお召し上がり下さい。

西教寺進徳仏教婦人会  
私たちといっしょにお聴聞しましょう